

大学本館

昭和7(1932)年竣工の大学本館は、表現主義風のカーブでまとめたパラペットや前面の植物文様のレリーフが特徴的な正面中央部、窓台を白にした左右の二連窓など、しなやかで優美なデザインが特徴です。



建設当時の大学本館

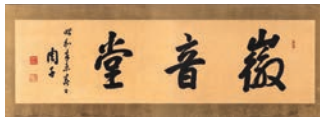
2階には皇后の行啓に配慮して「貴賓室」が設けられていました。現在、貴賓室は大学会議室として利用されています。

徽音堂

大学本館中央に位置する講堂は、「徽音堂(きいんどう)」と呼ばれ親しまれています。「徽音」とは「美しい音」「美德」を意味し、正面上方には、東伏見宮妃周子の手による「徽音堂」の額が掲げられています。



徽音堂



徽音堂扁額

作法室と歴史資料館

本館完成時には、1階に洋式作法室と和式作法室が設けられていました。平成15(2003)年からの本館改修では、洋式作法室にあった石張りの暖炉を保存し、平成18(2006)年3月、この部屋を歴史資料館として開館しました。



作法稽古中の様子

歴史資料館では、本学の歴史的な資料の展示・公開を行うとともに、教育研究も行っています。

国際交流留学生プラザ

平成31(2019)年3月に竣工した国際交流留学生プラザの1階にも歴史資料館が置かれました。

明治36(1903)年5月、シヤム(現在のタイ)国皇后の発意によりシヤム国駐在の日本公使の仲介で男女8名がわが国に留学し、本校ではそのうち女子4名を受け入れました。プラザの名に因み、それら国際交流に関する資料を展示しています。他にも、寄宿舎の風景や大学祭である徽音祭や学生運動について展示をしています。



シヤム国留学生

資料寄贈のお願い

お茶の水女子大学歴史資料館では、本学に関する史資料を収集しています。ご寄贈いただけるものがございましたら、下記までご連絡下さい。

開館日

大学本館歴史資料館

特別開館中以外は、閉館しています。
見学をご希望の方は、見学希望日の2週間前までに申請が必要です。

国際交流留学生プラザ歴史資料館

国際交流留学生プラザに準じて開館しています。

お問い合わせ

お茶の水女子大学 図書・情報課 大学資料担当

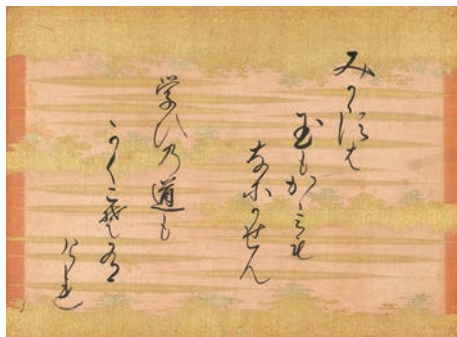
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

✉ shiryo@cc.ocha.ac.jp

お茶の水女子大学デジタルアーカイブズ

🌐 <https://www.lib.ocha.ac.jp/archives/>





みがかずば

開学と昭憲皇太后

お茶の水女子大学の前身である東京女子師範学校は、わが国最初の女子高等教育機関として明治8(1875)年11月29日に開校しました。開校式には、皇后(のちの昭憲皇太后)の行啓を仰ぎ、この時、皇后からは女子教育振興の開学の令旨を賜り、また、翌12月には御歌「みがかずば」を下賜されました。その歌に譜をつけたものが、わが国最初の校歌として現在まで歌い継がれています。

女子教育発展への関心が高い皇后と本校との関係は非常に深く、開校式以降もしばしば行啓が行われました。その回数は明治期に11回を数えます。行啓時には、令旨や反物、などの品を賜っていますが、明治14(1881)年の礼節教場竣工に際しては、「(伝)酒井抱一筆三幅対画幅」を下賜されました。

大正3(1914)年4月に昭憲皇太后が崩御された後、御遺品として「梨子地桐鳳凰蒔絵御料紙御文匣・御硯箱」が下賜されました。

大正期以降も、本学の昭憲皇太后に対する畏敬の念は継承され、昭和7(1932)年に竣工した講堂(徽音堂)内に掲げるために製作された「明治天皇像」・「昭憲皇太后像」は修復を経て現在も状態よく保管されています。



昭憲皇太后像



梨子地桐鳳凰蒔絵御料紙御文匣



幼稚保育図(部分)

日本初の幼稚園

明治9(1876)年11月、わが国初の幼稚園として本学の附属幼稚園が開園しました。翌年の開園式には皇太后と皇后の行啓を仰ぎ、その際に賜った令旨は、現在まで受け継がれています。

当時の保育風景は「幼稚保育図」「二十遊嬉之図」「幼稚鳩巢戯劇之図」などの絵画に描かれています。これらの絵画の中にも描かれている教育玩具の「恩物」も残されています。

恩物とは、ドイツ人の教育学者フレーベルの考案による教育玩具で、フレーベルが創設した保姆学校で学んだ本園の保姆、松野クララによって日本に紹介されました。なかでも幼児教育に重要な20種の玩具は「二十遊嬉」と名付けられました。そのほか、実際に恩物を使って遊んだ2人用の机が残されています。



恩物



二十遊嬉之図



第1回卒業生

卒業生の活躍

明治12(1879)年3月には、第1回卒業証書授与式を挙行し、最初の卒業生を送り出しました。以後、現在にいたるまで、多岐にわたる分野で多くの卒業生が活躍しています。

本学は、これまで数多くの優れた女性教育者、研究者を輩出してきました。理系の研究者では、わが国初の女性博士となった保井コノ、初の女性理学士であり女性博士第2号となった黒田チカ、本校卒業後、フランスで博士号を取得した湯浅年子などが著名ですが、いずれも自らの研究を続けるとともに、本学の教授として後進の指導にあたりました。

東京女子高等師範学校時代の実験風景や授業風景を写した写真も数多く残っています。また、授業で使用された実験道具が保管されています。



講義中の黒田チカ



顕微鏡



地理授業風景